



「眼をあげて 涯脈を望め・・・」

(本校校歌より)

校長 中川 秀樹

北海道滝川高等学校のホームページにアクセスいただきありがとうございます。

滝川高校は、石狩川と空知川の恵みによる豊かな大地の広がる北空知の中核校として、昭和4(西暦1929)年に北海道滝川高等女学校として開校しました。その後、昭和23年には定時制課程を設置、昭和25年には高等学校再編により北海道滝川東高等学校となり、昭和29年に現在の校名である北海道滝川高等学校と校名を変更、昭和44年には理数科を設置するなど、変化を重ねながら伝統校としての基礎を積み重ね今年で90年目を迎えました。卒業生は24689名にのぼり、同窓生には地域の政治、経済、行政におけるリーダーも多く、道内・道外はもとより広く海外でも活躍しております。

開校以来、「高い志をもち、自己を創造し、真理を追究する心と未来を拓く力を育む」を教育目標に掲げ、教職員が一丸となって創意工夫あふれる教育活動に取り組んで参りましたが、現在も地域の方々にとって「憧れの学校」、「自慢の学校」、「生涯学習の拠点」となるべく、これまでの歴史と伝統を紡ぎながら、教育の質の向上に努め、高い学力の確保・向上、進路第一希望実現、生涯学習体系に基づく勤労青少年の育成に向けて、全日制課程普通科(各学年5学級)、全日制課程理数科(各学年1学級)、定時制課程普通科(各学年1学級)が密接に連携をとり教育活動を推進しております。

全日制課程は「地域の進学校としての期待に応え、将来の社会を担う人材の育成」をめざしており、理数科を設置している学校の特長を生かしつつ、平成25年度より文部科学省から研究指定を受けたスーパーサイエンスハイスクール事業(今年度は経過措置校として2期目の指定を目指しております)を活力剤として、類型別ホームルーム編成等による特色ある進学指導体制の構築、7時間授業や土曜日授業の実施・産学官連携事業・いわゆるアクティブ・ラーニングの実践など教育内容の改善・充実、更に研究授業や授業評価・学力等実態調査の活用による授業改善などを行い、これからの社会で求められる学力の確かな定着など一段高見を目指した教育活動を進めるとともに、進路第一希望の達成(平成29年度 大学短大進学者166名(国公立62名)、専門学校41名(高等看護学校22名)、就職9名)に向けた指導を行っております。また、部活動では、文武両立の元、平成29年度は陸上競技部、水泳部、書道部、囲碁・将棋部が全国大会に駒を進めたほか、体育系部活動ではバスケットボール部をはじめ10部が、また文化系部活動においても吹奏楽部をはじめ9部が全道大会に駒を進めるなどの活躍が見られております。

一方、定時制課程では、生徒の個性や受容的な学習環境を大切にし、個別指導やゆとりある学びの機会の提供、定通併修制度の導入、地域と連携したボランティア活動への積極的な参加等により、学力の定着・向上と自己有用感の醸成など、豊かな心の育成を目指した教育活動を進めており、これらの教育実践は全道からも高い評価をいただいております。

これからも地域の統校として、地域の期待を誠実に受け止め、生徒が自信と誇りを持って生活できる学校づくり、保護者や地域から信頼される学校づくりに努めてまいります。

